

修学旅行

2019.11.13

梁川高校の2年生が、今日から2泊3日の予定で関西方面に出発した。修学旅行である。そう高校生活の一大イベントである。昨年度までは3泊4日であった。今年度は保護者の経済的負担などを考慮して2泊3日になった。

その内容はというと、福島駅から8時35分の新幹線に乗り、13時11分には京都駅に着く。まず最初の活動が「郷土PR活動」である。生徒は、総合的な学習の時間に、グループごとのテーマを決め、伊達地区に関する調査活動を行い、パワーポイントのスライド資料としてまとめ、発表会まで行った。この学習のゴールが今回の京都での活動となる。京都のゼスト御池という所で、伊達の特産品を配る。その際、自分たちの学習の成果である資料も配布する。同時に台風19号の被害に遭われた方々のために募金活動も行う。本校の生徒にとっては何ものにも代えがたい経験となるであろう。1時間程度を予定しているが、物品がなくなり次第終了となる。

この企画の発案者は、学年主任の及川俊哉という教員である。ここには、彼の熱い思いが溢れている。自分が初めて学年主任を務める生徒にこうなってほしい、こんな力をつけてほしい、社会に出るためにこんな経験をさせたいという思いである。彼は1年生のときから見通しをもって計画的に様々な教育活動を進めてきている。自分が担当する生徒の教育に責任をもつという教師としての気概が感じられる。以前彼にこんなことを言ったことがある。「今の2年生に卒業証書を渡すのは私だから。卒業まで共にがんばろう」及川教諭とは、以前福島県教育センターに勤務しているときに1年間ご一緒したことがある。まさか、梁川高校で再び苦楽を共にする日が来るとは想像もしなかった。これも縁である。縁は大切にするものである。人は縁で生き、縁に生かされる。

修学旅行の1日目は、「郷土PR活動」の後に京都班別自主研修を行って宿舎に入る。2日目はまず京都・大阪班別自主研修を行う。このゴールがUSJである。USJがゴールだと、高校生は全員集合時間までに姿を現す。そして、最終日である3日目は、大阪城などを見学し、新大阪駅を13時50分に出発して18時32分に福島駅到着となる。

結団式で、私の経験として、もう30年も前のことになるが、高校の修学旅行のことを今でも覚えていることを話した。京都の旅館に何泊して夕飯に何が出たかまで覚えていることも。修学旅行とは、それだけ思い出に残るものなのだろう。ぜひ一人一人の生徒にとって、何年経ってもずっといい思い出として残るような修学旅行となることを祈るばかりである。

ここ数日間で、何人かの生徒に「校長先生は、修学旅行に行かないんですか」と言われた。私は行く気満々だった。当然校長が団長として行くものだと思っていた。ところが、どうも様子がおかしい。心配になり、教頭先生に聞いてみた。すると、梁川高校では、校長と教頭が交互に行っているというではないか。今年度は教頭が行く番なのだそうだ。そういえば、以前、中学校で教頭をしていたときも同じように交互に行く学校だった。教頭である私は、団長として緊急時の対応や事故が起きないかなど注意を払いながらも、京都と大阪で手のかからない生徒と気を遣ってくれる教員に恵まれ、いい時間を過ごした記憶がある。

今回の修学旅行には引率として4人の教員を派遣するが、生徒が充実した活動を行い、たくさんの笑顔が見られれば、少しは疲れもとれるかもしれない。いやそんなことはないか。修学旅行の引率は、そんな甘いものではない。無事に帰ってきて当たり前。その当たり前のことを成し遂げるために、引率教員はすべてのエネルギーを使うのである。